**令和７年度　ものづくりイノベーション支援プロジェクト**

別紙

**認定案件の概要**

（※認定期間のうち助成対象事業期間は初年度のみ）

**◆７件　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　社名五十音順**

|  |  |
| --- | --- |
| 計画名称 | ワイヤーフォーミングマシンを用いた電磁コイルのコイル成形と被膜剥離の複合加工技術の開発 |
| 申請企業（所在地） | 葵スプリング株式会社（八尾市） |
| 支援機関  （所在地） | 八尾市立中小企業サポートセンター（八尾市） |
| 計画の概要 | 電磁コイルの生産で、従来の「①コイル成形」　「②曲げ」　「③両端被膜剥離処理」の3工程による生産方式から、「ワイヤーフォーミングマシンによる成形加工と被膜剥離処理」を同時に1工程で行い、形状精度と剥離漏れのない品質を担保できる技術を開発する。 |
| 認定期間（※） | 令和７年６月27日から令和８年３月13日まで |

|  |  |
| --- | --- |
| 計画名称 | へら絞り加工の新規素材開発 |
| 申請企業（所在地） | 株式会社　青戸金属（八尾市） |
| 計画の概要 | チタン、インコネル等の難加工材にへら絞り加工を加え、航空機・耐熱換気部品向けのサンプル品を作成する。 |
| 認定期間（※） | 令和７年６月27日から令和８年３月13日まで |

|  |  |
| --- | --- |
| 計画名称 | タグステッチミシンの開発 |
| 申請企業（所在地） | 株式会社アックスヤマザキ（大阪市） |
| 計画の概要 | トヨタ車体の特許技術であるタグステッチ工法を活用することで、一般家庭向けとしては世界初のタグステッチ工法を使って立体物に直接縫えるミシンを開発する。従来のミシンの構造とは違い、下糸の代わりにタグピンを使うことで、ソファやサドルなど立体物に直接加飾や縫製できるようになるので、個人が立体の既製品を直接自分でリメイクしたり、気軽に補修できるような新しい文化を創造する。 |
| 認定期間（※） | 令和７年６月27日から令和８年３月13日まで |

|  |  |
| --- | --- |
| 計画名称 | 新型のガラス生地を用いた海外展開のための磨き技術の開発 |
| 申請企業（所在地） | 天満切子株式会社（大阪市） |
| 計画の概要 | 切子グラスの製造過程における「磨き」を天満切子とは違う技術を用いて、従来の作業時間から大幅に時間を短縮させる効果とグラスの色味や風合いに変化をもたらす技術を開発する。 |
| 認定期間（※） | 令和７年６月27日から令和８年３月13日まで |

|  |  |
| --- | --- |
| 計画名称 | 重量級自動ドア用小型・高トルクモータの開発 |
| 申請企業（所在地） | 北陽オートドア株式会社（豊中市） |
| 計画の概要 | 自動ドアに使用するモータは、ドアの框に取り付けなくてはならないため、大きさの制限がある。従来の方式のモータでは、小型で出力の大きいモータがなく、高重量のドアの開閉には使えなかった。モータ出力を大きくするため、モータ構造を9相10極の多極化構造に、巻線抵抗を従来比1/8に下げ高電流化および分割コアを用いて巻線を小型で高占積率化することでモータの定格出力を50Wから160W（ピーク出力230W）に上げた高速・高トルクモータを実現し、更に連結する減速機に減速比1/10ハイポイドギアを使うことにより、重量300kgドアを平均速度410mm/sで安定に動作させることができた。 |
| 認定期間（※） | 令和７年６月27日から令和９年12月31日まで |

|  |  |
| --- | --- |
| 計画名称 | インジゴの微生物発酵生産技術および同インジゴを使用した製品の開発 |
| 申請企業（所在地） | マイクロバイオファクトリー株式会社（大阪市） |
| 支援機関  （所在地） | 地方独立行政法人大阪産業技術研究所（大阪市） |
| 計画の概要 | 化石資源由来の原料から製造されるインジゴ染料を、微生物発酵技術を用いて微生物発酵で生産する技術の開発および同技術で生産したインジゴ染料を用いた新規の製品開発を行う。 |
| 認定期間（※） | 令和７年６月27日から令和８年３月13日まで |

|  |  |
| --- | --- |
| 計画名称 | ハイスピードカメラを用いたブルーレーザーエナメル剥離走査軌跡の高速化開発 |
| 申請企業（所在地） | 丸昭機械株式会社（八尾市） |
| 計画の概要 | 銅線のエナメル被膜除去高速化のため、レーザパワーと走査速度をUPさせると、走査軌跡とレーザON/OFFタイミングがシビアになってくる。そこでハイスピードカメラを用いて、より品質の高いエナメル除去を実現することで、より低い抵抗で電気を流すことができる。 |
| 認定期間（※） | 令和７年６月27日から令和８年３月13日まで |